

富士山の災害対応に資する避難誘導者向け情報共有プラットフォームの整備 (R3~R5)

背景

火山としての富士山の特性

- ◆ マグマの粘性が低い！
→ 前兆から数時間で噴火の可能性
- ◆ 広域に多数の噴火口跡！
→ 火口の出現位置の予測が難しい

噴火時に短時間で大勢の登山者や観光客を的確に避難させられる体制が必要

目的

迅速な情報伝達・共有と的確な避難誘導の実現

- ◆ 火山の状態変化を察知するための観測強化と迅速な情報共有
 - ※ 地震計を山体の中心付近に増やすことで震源の精度向上と迅速な検知
 - ※ 地震計ネットワークを活用した情報共有基盤の構築
 - ◆ 鍵となる避難誘導者への働きかけ
 - ※ 御嶽山噴火での知識を活かした草津本白根山噴火の良い対応
 - ※ 実際に避難誘導するのは山小屋の主人やガイド
 - ※ 迅速かつ正確に情報を把握し、対応できる山小屋スタッフ等の育成が鍵
- 火山防災リテラシーの重要性

研究内容

情報共有システムのための基盤整備

- 山小屋関係者、登山ガイド、有識者や警察を含めた情報共有すべき「避難誘導者」グループを組織
 - ニーズに基づく効果的な情報共有手法の検討
 - 避難誘導者と連携した効果的かつ効率的な観測方法の研究
 - 避難誘導者の火山防災リテラシー向上を目的とした研修手法の開発、及び平時利用できる教育的コンテンツの研究
- ※ ガイドから登山者向けの講話内容提供等を通じた避難誘導者教育

1年目

2年目

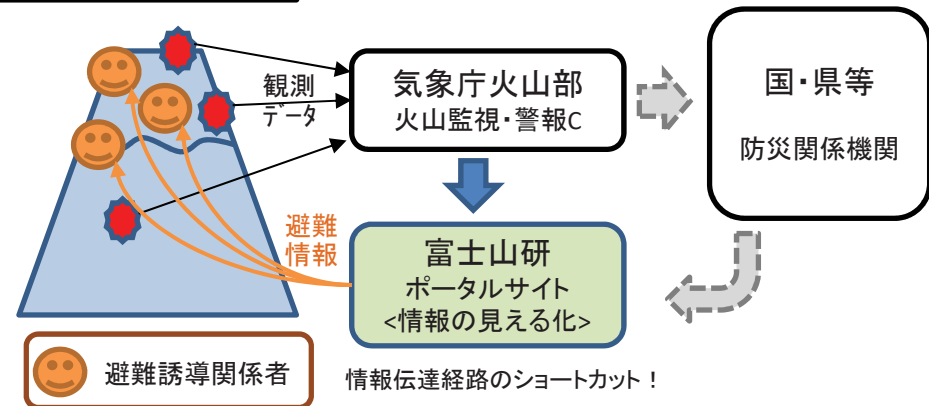
3年目

- | | | |
|---------------------------------|--------------|----------------------|
| 1. 情報共有グループの組織とニーズ調査・通信インフラ現状把握 | | |
| | 2. システム設計の検討 | |
| 3. 地震計・記録計調達 | | 3. 地震計・記録計設置、データ送信試験 |
| | 3. 許認可関連 | |
| 4. 避難誘導者の火山防災リテラシー向上のためのコンテンツ開発 | | |

共同研究機関： 東京大学地震研究所

期待される効果

安心・安全な富士山の実現へ



★ 本研究によって緊急時に活用できる普段使いの情報共有システム構築のための基盤が整う。また、火山防災リテラシーの向上により、ハード(情報基盤)とソフト(対応力)が整い、富士山の安心・安全度が向上する。

※ 研究成果を踏まえ、IT事業者や観光事業者によるMapチャットサービスなど、暴風雨や滑落事故時等にも有効な登山者等情報共有システムの開発により、世界トップレベルの安全登山を標榜することができる。